

第2回「成長型中小企業等研究開発支援事業」

中間評価検討会

議事録

1. 日 時 2024年2月27日(火) 16:30～17:30

2. 場 所 経済産業省別館2階236会議室(Microsoft Teams 会議併用)

3. 出席者

(評価検討会委員) [敬称略・五十音順、※は座長]

井上 貴 独立行政法人中小企業基盤整備機構 経営支援部長

小池 良輔 奥野総合法律事務所 パートナー弁護士

※杉田 直彦 国立大学法人東京大学大学院工学系研究科 教授

丹波 純 国立研究開発法人産業技術総合研究所 企画本部 副本部長

道古 薫 株式会社 FUNDINNO パートナー

三尾 淳 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター 理事

(事務局)

中小企業庁 経営支援部 技術・経営革新課

課長 森 喜彦

係長 輪野 大樹

係員 下山田 理沙

(評価推進部署)

産業技術環境局 研究開発課

課長補佐 村中 祥子

4. 配布資料

議事次第

資料1 評価報告書(案)

参考資料1 評価用資料のアンケート結果について

5. 議事

(1) 開会

(2) 評価報告書(案)について

事務局から、「資料1 評価報告書(案)」、「参考資料1 評価用資料のアンケート結果について」について説明があり、その内容について審議が行われ、以下の質疑応答の後、評価報告書(案)が了承された。追加的な修正については座長一任で行うこととされた。

【杉田座長】 それでは、まず、参考資料 1 についてご意見、ご質問等ございますでしょうか。

【三尾委員】 (この制度がなかった場合にどうしていたかというアンケート回答が、企業規模が大きくなるに従って研究開発を断念する比率が小さくなる傾向が認められることを受けて) 非常に興味深いデータをお示しいただきまして、大変ありがとうございます。やはり小規模事業者に対しては、本事業は相当有効だということを改めて実感できた次第でございます。ご説明いただきまして、大変ありがとうございます。

【杉田座長】 規模が小さい企業ほどメリットは大きく感じるかもしれないですね。

【杉田座長】 それでは、評価報告書(案)の第 1 章「評価」について、ご意見、ご質問等お願いできればと思います。1. 評点法による評価結果は点数づけなので分かりやすいと思います。2. 評価の方は文章で、参考として皆様からのコメントが掲載されている、そういう形になっております。

まず、1. 評点表による評点結果、この点数のところ、何かございますか。順番に見ていくと、意義・アウトカム達成までの道筋で、「事業の目的・位置づけ」は皆さん A をつけられていて、これは全会一致で非常に重要な事業であるというところですね。「アウトカム達成までの道筋」及び「知財戦略・標準化戦略」というところで B をつけられる方がいらっしゃいますので、この事業としては非常に有意義なのだけれども、この出口のところまでの道筋だったり、知的財産・標準化戦略というところで、もう一踏ん張りできるといいよねというように皆さんの評価なのかなという気がします。

次にアウトプット及び達成状況。アウトカム目標及びアウトプット目標というところは、少し評価が難しいところもあるので、ここは委員の方々の間でばらけているのはそういうことなのかな。切り口によって評価が何とでもなるというところですね。

マネジメントに関しましては、「実施体制」というところが割と皆さん B をつけられているのですが、もう少し改善したらいいよねというところがみんな共通して思っていると感じているのですけれども、マネジメントの実施体制のところでは何かコメントとかがもしあれば。

「受益者負担の考え方」及び「研究開発計画」のところはいいのかなと思います。マネジメントの実施体制のところが一番評点としても低く出ているので、ここは少し考えるといいのかな。この辺の評価を参考にしながら、2. 評価のところ。順番にもしコメントがあれば、お願いできればと思います。

(1) は「意義・アウトカム(社会実装)までの道筋」ということで、ここは皆さん、事業としてはいいけれども、アウトカムまでの道筋は少し改善できるよねというところの意見が反映されていればいいのかなと思います。アウトカム達成までの道筋は長い目で評価できるとよいと思います。

(2) の「目標及び達成状況」のところは、アウトカム短期目標としての達成度の平均を 50%と設定しているところですね。実施件数はさらに増やした方がいいのではないかというコメントを書いていたと思います。

アウトプット目標については、何をもってアウトプット目標とするかというところで多分議論があって、特許件数なども入れてもよいのかもしれないというところですね。

(3) が「マネジメント」のところですが、国が中小企業の研究開発を支援する意義は大きく、総じて明確ですね。3年間というプロジェクトで、国の予算と研究開発のバランスも悪くないですよ。

あとは、どれぐらいチャレンジングなものに取り組んでもらうかというところは、少し議論の余地があるのかなという気はしていて、チャレンジングなものであれば、達成度は下がってしまうけれども、成功したときのインパクトは大きいというところで、その辺のバランスはあるのかなと。川下企業の言いなりになってしまうと、否定的な意見が少し出てしまうのかなというのもあるので、そういう意味で、実施体制をうまく持っていくようにアドバイスできるような仕組みがあってもいいのかなという気がします。

この辺のコメントと評価のところを鑑みて、何かコメントとか質問とか、修正した方がよいというところがいただけるといいのかなと思います。評点のところは、特に皆さん問題なさそうでしょうか。

評価の方に行きますと、(1) の「意義・アウトカム（社会実装）までの道筋」ですね。この文言で特に何か気になるところはありますか。バランスよく書いていただいていると思っていて、このプロジェクトとして意義は大きい。このアウトカム達成のところですね。

3 段落目は、川下企業の位置づけです。川下企業は、実はこのプロジェクトのキーで、川下企業がないと製品化はなかなかうまくいかないの、川下企業とうまくやってほしいという思いがある反面、どうしても川下企業の意見が強くて、川下企業が大企業になる場合が結構ありますけれども、川下企業に中小企業が振り回されてしまうような側面というのは何とかもう少し改善できるのかなと思いますし、そういう部分を少し書いてくれていると思います。

あと、こういうものを足した方がいいとかもしあれば。

【丹波委員】非常にうまくまとめていると思います。

【杉田座長】非常にうまくまとめているので、あまりけちのつけようがないのですが。

第1回評価検討会で出た意見はうまく反映できているのかなという気はします。

あとは、端から製品化するつもりのないような、そういう申請書をうまくはじきたいというのはあるかもしれないですね。そういう意味では、川下企業としっかりとタグを組んでいますかというのが重要なポイントなのだけれども、逆に川下企業が強過ぎると、また振り回されるというところ、意思に左右されるというところがジレンマですね。

そうすると、この文章は特に大丈夫ですかね。

次の(2)「目標及び達成状況」というところの文言を確認したいと思います。アウトカム短期目標として達成度の平均を 50% と設定しているというところです。令和 2 年度の採択事業からは、新たなアウトカム目標・アウトカム指標というものが設定されていて、よりきめ細かいモニタリングができるようになって

ています。アンケートからも、実施した企業にはメリットが大きかったというところで、実施件数はもっと増やしていてもいいところです。

ただ、アウトカム目標の短期目標が低くて、適切な目標値の設定を検討すべきであり、さっき、短期目標として達成度の平均を 50%と設定しているのは妥当だと言いながら、ここでは、アウトカム目標の短期目標が低くて、適切な目標値の設定を検討すべきだと言っているのは、少し矛盾があるかもしれないですけども。アウトカム目標の長期目標の達成見込みは不透明な印象もあります。

このアウトプット・アウトカム目標のところ、議論があるところだと思いますので、よく読んでいただいて、ストーリーがしっくりくるか、なかなか難しいところですけども。どういう形でアウトプットを管理するかというのは議論していくべきというメッセージがうまく入っていればいいかなと思います。

この段落、メッセージがどこにあるかは少し分かりにくいところはあるのですが。読んでいるとだんだんアウトプットとアウトカムの違いが分からなくなって、どちらが何だったかというのはあるのですけれども。

何か気になる点とか修正すべき点とかございますでしょうか。大丈夫そうでしょうか。

そうすると、最後の（３）「マネジメント」のところに移りたいと思います。マネジメントとしては、実施体制・マネジメント体制・補助率等の設定も適切であると評価でき、補助率は今、2/3 ですけども、いいところかなとは思いますが、企業からすると全額補助にしてとかいうアンケートもありましたけれども、踏み絵的にやる気あるというところである程度持ち出してもらうのはいいのかなと思います。

あとは、最長 3 年程度、実質の 2 年から 2 年半程度の補助期間というのは妥当と思われるという言い方をしています。そこも、3 年は悪くないかなと思いますので、この文言でいいかなと思います。

採択された企業にとって、Go-Tech、昔のサポインに選ばれたというのはみんな誇らしいことで、サポインに採択されましたというのは、ホームページでもみんなアピールするようなところもあって、一種のブランドにはなっていたので、そういうところは非常にブランディングとしてもいいのかなというところでは。

補助率 2/3 は妥当であると考え、3 年間合計で 9,750 万円以下という総額もこの文言では妥当であるとしています。2/3 補助で、3 年間で 1 億円ぐらいというのは、すごくよい落としどころかと思います。

あとは、チャレンジングな内容をどこまで許容しますかというところの書きぶりになるかと思います。チャレンジングな内容とのすみ分けというか、そこをうまく書いてくれていますけれども、チャレンジングのところ、何かあれば。

次の段落は管理系ですけども、結構、企業とか大学もそうですけれども、経産省系の予算は管理が結構大変で、そういうところも書いてくれていると思います。事業管理機関に対する経費は定額ですが、事業管理機関としての負担が増大しており、こういうところ、仕組みを検討してほしいというところでは。

ね。

最後の段落は、知る人ぞ知るみたいな事業になっているので、もっとみんながトライしたいと思うようなところに持っていきたいですねと、こういう締め方になっています。

全体を通して何か気になるところとかございましたらお願いします。うまくまとめてくれているので、あまりけちのつけようがありませんが。

【井上委員】特に異論はないです。

【杉田座長】そうですね。うまくまとめているという気がします。こうした方がいいってなかなか難しいですね。でも、自分の言いたいことが入ってないとかもしありましたら。よろしいでしょうか。

【杉田座長】それでは、評価報告書（案）の第2章「問題点・改善点に対する対処方針」について、ご意見、ご質問等をよろしくお願いいたします。各コメントに対して丁寧にご回答いただいているかと思います。

【丹波委員】私が幾つか文書でお送りした際に申し上げたものに対して、非常に丁寧にご検討いただいたのと、同じ思いであるという部分を何か所か言っていただけたこと、大変ありがたく思いますし、特に私が申し上げたかったのは、（2）目標の一番最後ですね。恐らく、今後はよりチャレンジングな課題への挑戦を日本全体でやっていくことになるのだろうと思う中で、それをエンカレッジする意味でも、ぜひチャレンジングな課題があまり損をしないようにという思いが皆さんと共有できたこと、非常に喜ばしいと思います。チャレンジングな課題への挑戦を阻害しないようご配慮いただけるというふうに明記していただいて、大変ありがたいと思っています。

それから、私以外の方もおっしゃっていたかもしれませんが、事業管理機関のインセンティブの話ですね。ここは何らかの形で将来的に考えていただけるというふうに今言っていたのも、これもまたよろしいかなと思いますので、大変ありがたいと思っています。

【杉田座長】Go-Techに申し込む時、事業管理機関をどこにするかが多分一番難しくて、なかなか引き受けてくれないし、そのうまいやり方ができるといいのかなという気はします。

あとは、広報のところですね。採択された企業に、Go-Techでやっている活動をホームページで紹介してもらうとか、Go-Techのサイトに飛んでいくようにリンクを貼ってもらうとか、ここの周知のところはうまくやれるといいのかなと思いました。

さらに、もう少し上位のところで行くと、日本経済は、人が少なくなって、経済としてはシュリンクしていく方向であるのは仕方ないので、その中でどうやって日本の製造業として頑張っていくかというところにうまくこの事業がコミットできるといいのかなとは思っているので、そうすると、チャレンジングなテーマというところが1つ大切なのかなという気がします。延命するだけの補助金みたいな形になってしまうと面白くはなくて、日本の製造業が戦っていけるた

めのサポートになるような事業になっていくといいのかなという気はすごくします。

そういう意味で、その企業にメリットがあっただけではなくて、こういう日本としてメリットが、国のお金を使っているので、国の製造業に対して、うまく貢献できたのかという視点もあっていいのかなという気もします。

皆さんから何でもいいですけれどもコメントがあれば。大丈夫ですか。修正事項が全くないのですが。それでは、事務局の方で通しでご確認いただければと思います。よろしくお願いします。

【事務局（森課長）】最後の杉田座長のコメントを、追加のご意見として承るというのがあるのかなと思ったのですけれども。

【杉田座長】ありがとうございます。委員の皆様から何かございませんか。

もし、以降の修正点があれば、座長の私に一任いただけましたらと思います。

【事務局（輪野係長）】本日ご審議いただいた内容は、おおむね修正等はなかったと思うのですけれども、また改めて事務局にて評価報告書の確認をさせていただき、杉田座長にご確認をいただいた後にセットとさせていただきたいと思います。

（３）その他

事務局から、本評価検討会で了承された評価報告書は、産業構造審議会産業技術環境分科会研究開発・イノベーション小委員会評価ワーキンググループに報告された後、経済産業省ホームページで公開されるとの説明があった。

（４）閉会

以上

お問合せ先

中小企業庁 経営支援部 技術・経営革新課

電話：03-3501-1816